



松浦莫章 アトリエにて

## 生い立ちと背景

1910年三重県上野市(現・伊賀市)に父宗治郎と母とせの三男として生まれる。県立上野中学校(現・三重県立上野高等学校)に入学し、水彩画を中田恭一(1895～1960)、油彩画を奥瀬英三(1891～1975)に学ぶ。在学中に第9回帝展に初入選し、卒業後も帝展、国際美術展に出品。1933年に上京した後は辻永(1884～1974)に師事し、本郷絵画研究所に入所した。1945年には東京の居宅が戦災にあい、郷里上野市に帰郷し、その後の活動は郷里で行う。1958年には第1回新日展にて特選を受賞。1976年頃からは本格的に欧州各国(スペイン・フランス・ドイツなど)への写生旅行を行い、帰国後、欧州作品展を日本各地の百貨店や画廊で開催した。1998年、逝去(享年88)。

## 学びと影響を受けた画家

伊賀ゆかりの洋画家、奥瀬英三が1924年に上野寺町の念佛寺で絵画・彫刻を研究する蒼丘会(社)を立ち上げたと伝わっており、県立上野中学校に図画教諭として赴任していた中田恭一や、その教え子にあたる浜辺万吉(1902～1998)、松浦莫章(1910～1998)らが集っていた。会の立ち上げの翌年から毎年、上野公園公会堂などを会場に洋画の展覧会を開催し、1928年の第4回展ではメンバーによる約200点もの作品が展示されたと報じられている。会の活動を通して切磋琢磨した甲斐あってか、同年秋の第9回帝展には、中田恭一《鳥羽の港》、浜辺万吉《窓際の静物》、松浦莫章《波切の風景》がそろって入選し、世間の話題をさらった。当時の帝展出品者の大半は東京や大阪、京都在住者であったため、伊賀上野からそろって3人も入選を果たしたことに地元が活気づいたことは想像に難くない。その後も蒼丘社のメンバーはたびたび帝展・文展に入選し、彼らの活躍を受けて、戦前の伊賀上野は「洋画のまち」と呼ばれるようになっていたという。会を創始した奥瀬は1929年には東京市十条に移り、1931年に埼玉県浦和市にアトリエ兼住居を完成させ、以後亡くなるまで同地で過ごした。また、中田は1933年に教職を辞し、埼玉県川口市に転居するが、教え子の浜辺、松浦は地元に残り、戦後まで伊賀の美術・文化を支える役割を果たした。

(三重県立美術館ニュース「HILL WIND46」2020年3月25日発行より抜粋)

## 年譜

- 1910 三重県上野市に父宗治郎母とせの三男として生まれる
- 1924 三重県立上野中学に入学、教諭中田恭一に水彩画を学ぶ
- 1928 在学中に第9回帝展に初入選
- 1929 上野中学卒業、第10回帝国美術院展入選「雨後の天王寺」
- 1933 上京して練馬のアトリエ村に住む。辻永に師事し、本郷絵画研究所に入所
- 1938 日支事変に応召、大東亜戦争を経て5年間勤務、その間報道班員として幾多の戦争画の大作を制作、作品は現在所在不明
- 1942 帰国して東京に寓居する
- 1943 岡万里子と結婚して大森区馬込町に新居を構える
- 1945 東京の居宅が戦災にあい、郷里上野市に帰る
- 1958 第1回新日展にて特選受賞「唐招提寺講堂」
- 1960 1か年の予定で渡仏、アカデミーグランシヨミュール研修
- 1964 朝日新聞大阪本社の委嘱によりギリシャミロス島にあるヴィナス発掘の現地取材。後にパリで1か年間滞在
- 1967 第10回新日展に委嘱出品「唐招提寺金堂」  
パリの画家たちの自由な作家活動にあこがれて本年度日展を去る
- 1972 上野市から生駒市にアトリエを移す
- 1976 このころから本格的に欧州各国(スペイン・フランス・ドイツなど)を写生旅行、帰国後、滞欧作品展を大阪・兵庫・三重・奈良等の百貨店や画廊で開催
- 1991 画業60年を記念して「松浦莫章画集」(光琳社)を刊行
- 1998 逝去、享年88

(松浦莫章画集、関西大学所蔵松浦莫章画集 参照)



ベニスの大運河の館 (1995)  
Grand Canal House in Venice

Shibaura Art Gallery

# 松浦莫章展

(1910-1998)

## 88年の生涯と軌跡

松浦莫章は、古都奈良や京都の歴史的な寺院や仏像、さらにはヨーロッパ各地やエジプトの風景を主題とした作品を数多く制作してきました。

本学では、御子息にあたる松浦幸生氏からの寄贈を受け、松浦莫章の作品を展示しております。これらの作品を通じてその芸術的価値を感じていただければ幸いです。

100<sup>th</sup>  
芝浦工業大学  
100th ANNIVERSARY

# 【 主な芝浦工業大学収蔵作品紹介 】

## 松浦莫章の代表作

COLLECTION

### 01 衆議院憲政記念館 (東京都千代田区)

【作品名】天皇に拝謁

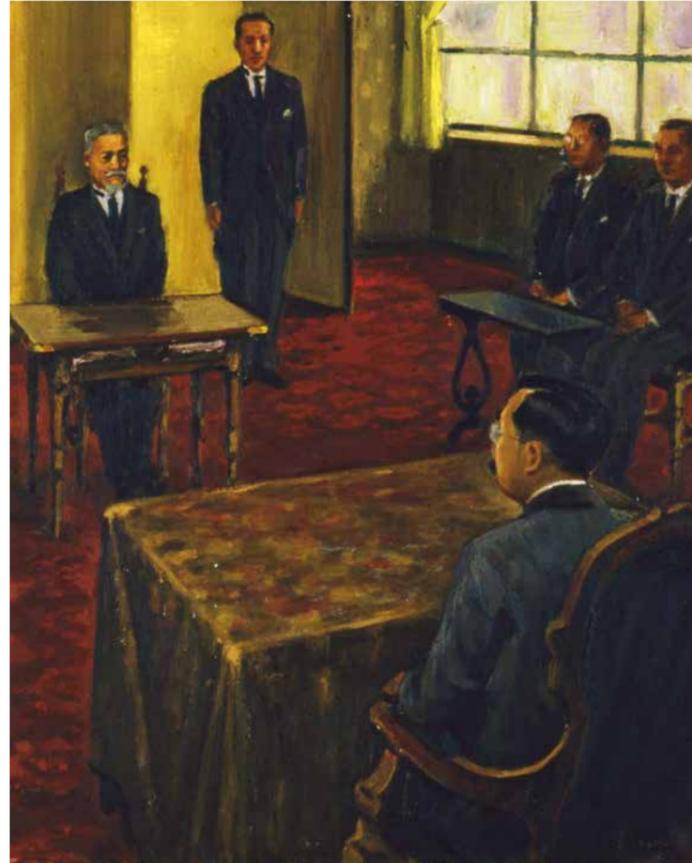
【制作年】1959年

【材 料】油彩

1945年、88歳の尾崎は宮中に参内し、天皇陛下に拝謁した。

この作品は「峯堂翁の生涯」を象徴した主なる場面十二景の一枚で、三重県出身の十二画伯が分担制作して尾崎行雄に献上したものである。これらの作品は松浦莫章が自費と暇を割いて奔走したものとされている。

(一般財団法人 尾崎行雄記念財団「世界と議会」(第575号)平成28年10月20日発行および衆議院憲政記念館「主な所蔵資料一覧」より一部引用)



衆議院憲政記念館所蔵

COLLECTION

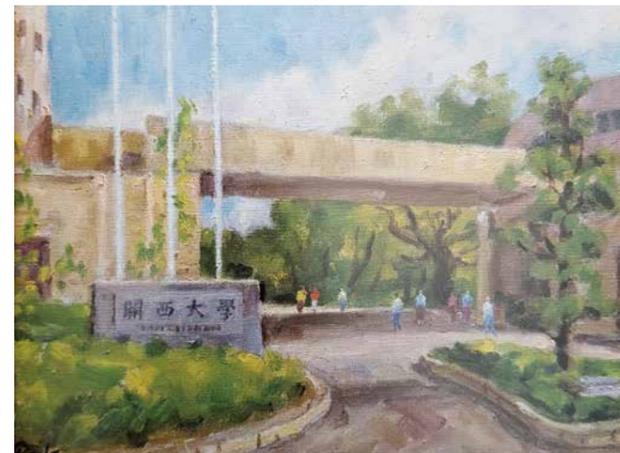
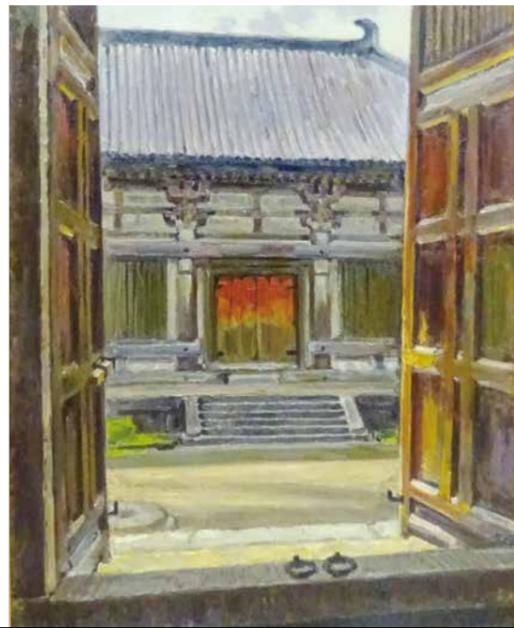
### 03 三重県立美術館 (三重県津市)

【作品名】唐招提寺金堂

【制作年】1959年

【材 料】油彩・キャンバス

三重県立美術館所蔵



学校法人関西大学所蔵

COLLECTION

### 02 学校法人関西大学 (大阪府吹田市)

【作品名】千里山キャンパス正門(秀麗橋)

【制作年】1997年

【材 料】油彩

※各作品は2025年3月現在は展示されておりませんが、展示有無に関しては各所にご確認ください。



冬のリュクサンブール公園(1961)  
Luxembourg Park in Winter



オンフルール港 1(1964)  
Honfleur Port 1



河畔の家並(アルジャントン) (1976)  
Riverside Houses (Argenton)



河畔(フランス) (1976)  
Riverside (France)



セビリヤ大聖堂(1976)  
Seville Cathedral



ベニスのサンマルコ寺院(1995)  
Basilica di San Marco in Venice



ベニス風景 2(1995)  
Scenery of Venice 2



カ・ドーロ(ベニス) (1997)  
Ca d'Oro (Venice)



正倉院(1966)  
The Shosoin Repository



大佛殿(1968)  
Great Buddha Hall



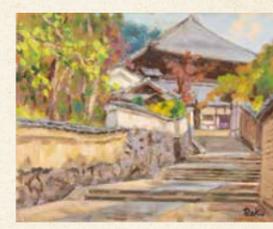
東大寺大佛殿(1973)  
Todaiji Temple Great Buddha Hall



奈良風景(東大寺) (1974)  
Scenery of Nara (Todaiji Temple)



二月堂への道 1(1977)  
Road to Nigatsu-do 1



二月堂への道 2(1983)  
Road to Nigatsu-do 2



唐招提寺 鼓樓(1986)  
Toshodaiji Temple Koro Hall (Drum Tower Hall)



室生寺金堂(1987)  
Muroji Temple Kondō Hall



東大寺金剛力士像(1970)  
Statue of Kongo Rikishi at Todaiji Temple



聖林寺十一面観音像(1974)  
Statue of Eleven-Headed Kannon at Shorinji Temple



観音寺十一面観音像(1979)  
Statue of Eleven-Headed Kannon at Kannonji Temple



室生寺十一面観音(1994)  
Eleven-Headed Kannon at Muroji Temple

COLLECTION